

「しっかり聞き、自ら判断し、伝え合える子

～防災教育を通して～

令和5年度 高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

四万十市教育委員会 拠点校 四万十市立八束小学校

1 事業の目標

(1) モデル地域の現状及び安全上の課題

今回のモデル地域については八束地域と下田地域を選定している。両地域は、四万十川河口部の右岸と左岸に位置し、南海トラフ地震が起こった場合津波の被害が見込まれる地域である。

東日本大震災から10年以上が経過し、避難場所の整備や学校現場における避難訓練の実施など防災対策も一定取られてきているが、モデル地域内の学校については津波浸水地域に位置しており、避難訓練や防災意識の向上が課題となっている。

(2) モデル地域の事業目標

- 八束小学校を拠点校として災害安全に取り組み、学校全体で防災意識の向上を図るとともに、拠点校の取組内容や成果を市内各校に共有する。
- モデル地域内の学校・家庭・地域が連携し、地域全体で子供の安全を守る体制を構築する。
- 地震・津波の特性や避難方法などを学習し、災害時に自ら考えて行動できる児童・生徒を育成する。

2 モデル地域の取組の概要

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

拠点校にて学校における避難訓練時の課題や改善点の検証についての共有や、各学校で整備している危機管理マニュアルの改訂等を行った。

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

市内の児童及び保護者に対して、地震や津波からの避難や日々の防災意識に関するアンケートを実施し、取組を行ったことでどのように意識が変わり、どういった点に改善が必要か検証した。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

モデル地域において地域の自主防災組織に協力してもらい、各校での避難訓練を行い、地域とともに子供を守る体制作りを行った。特に避難経路については、危険箇所等を認識し、市や地域とともに安全確保できるように共有した。

(3) 学校安全推進体制の構築及び学校安全担当教員の資質向上に係る取組

本事業の実践委員会に置いて拠点校の取組について各学校と共有し、校内研修等の場で学校安全担当教員を含めた教職員全体で防災意識の向上を図るとともに、災害発生にだれがどういったことをするか、危機管理マニュアルを基に確認を行った。

また、8月には311教訓伝承・被災地視察研修へ職員2名を派遣し、東日本大震災における被害や災害時において取るべき行動などを学んだ。

(4) その他の主な取組について

拠点校での取組について、防災教育研究発表会で県内の教職員や拠点校の保護者、地域

住民に対して、報告等を行った。また、市の校長会にて取組の成果発表を2回行い、市内各校の防災意識の向上を図った。

3 拠点校の取組

(1) 拠点校の目標

- 学校教育目標「元気で 優しく たくましくしっかり学ぶ児童の育成」
- 研究主題「しっかり聞き、自ら判断し、伝え合える子」
- 安全教育目標

- ①災害やその被害について理解し、「想定にとらわれない判断力」を身に付けることができる。
- ②「自分の命を自分で守る」ために、よりよい行動をとることができる。
- ③命の尊さを知り、進んで「助け合い、支え合う」ことができる。

上記の児童の育成を目指し、防災教育をテーマとした参観日や研究授業、防災教育に関する発表などを行い、児童に対しての防災教育の充実を図る。また、「学校運営協議会」や「防災参観日、防災研究発表会」等の開催により、保護者、地域の方々の防災意識の啓発や防災力の向上を目指す。

(2) 具体的な取組

①防災学習の取組

【1・2年生】

学習テーマ：**がっこう だいすき 「学校や通学路で地震が起きた時のために備えよう」**
つながる広がるわたしの生活 「地震について学習したことをみんなに伝えよう」

＜がっこう だいすき＞

- ①地震が起きたらどうするか考えよう。【4月】
- ②みんなで通学路を歩こう。
- ③学校の中や通学路の危険な所を見つけよう。【5月】
- ④学校の中や通学路の安全な所を見つけよう。
- ⑤学校や通学路で地震が起きたらどうするか考えよう。

…防災研究授業

- ⑥学校で見つけたことをまとめよう。【6月】
- ⑦学校で見つけたことを伝えよう。(実崎地区の方)【8月】

＜つながる広がるわたしの生活＞

- ①学習したことを誰に伝えたいか考えよう。【9月】
- ②もっとくわしく調べよう。
- ③どうやって伝えたらいいか考えよう。
- ④伝えたいことをキャラクター、劇、歌とダンスにしよう。【10月】
- ⑤これまでの学習を発表しよう。【11月】…防災教育研究発表会
- ⑥学習を振り返ろう。

【3・4年生】

学習テーマ：**防災マップを作ろう**

～防災マップを作り、お世話になっている地域の人に恩返しができるようにしよう～

- ①地震や津波について知り、自分たちにできることを考える。【4月】
- ②これまでの学習を想起し、気づいたことや考えたことを発表し合い、自己課題を設定する。
- ③校区探検をして、危険場所や避難場所、安全な道などの防災マップに載せたいものを見つける。【5月】
- ④調べたことや伝えたいことを出し合い、どのようにすれば八束地区が地震や津波に強



くなるか考える。【6月】…防災研究授業

- ⑤調べたことや話し合ったことを基に、地震や津波に強い八東地区の防災マップを作る。【9月】
- ⑥中間検証を行い、もっと改善できることや調べたいことを話し合う。【10月】
- ⑦話し合いを基に、調べたいことや伝えたいことを調べ、防災マップに書き込む。
- ⑧発表するための役割分担を決め、練習をする。【11月】
- ⑨発表し合い、ふり返る。…防災教育研究発表会



【5・6年生】

学習テーマ：四万十川と生きる

～震災から起こり得る被害を知り、地域の防災対策・設備の現状を調べたり、自ら防災対策を考えたりして、命を守り、生き延びるために必要なことをまとめよう～

- ①地震や津波のメカニズムや影響、過去の災害の様子について知り、防災学習への意欲を高める。【4月】
- ②これまでの避難訓練を想起し、気づいたことや考えたことを発表し合い、自己課題を設定する。
- ③学校周辺の避難場所のフィールドワークを行い、防災倉庫の有無や高さ、避難道等について調べ直す。【5月】
- ④過去の南海トラフ地震の資料やインターネットの情報を基に、地震や津波のメカニズムや被害について調べる。
- ⑤市や県の防災・減災に向けた取り組みを調べる。【6月】
- ⑥防災における地域の課題と取り組みを出し合い、現状を共有する。…防災研究授業
- ⑦第1回防災意識調査（保護者・児童）の結果を分析する。
- ⑧調べて分かったことをまとめ、友達に分かりやすく発表する。
- ⑨現在行われている防災対策で、疑問に思うことについて、他の地域の情報と比べながら調べる。【9月～10月】
- ⑩防災学習を通しての学びを、分かりやすく下級生や地域の方々へ伝えられるように整理する。【11月】
- ⑪自分たちが特に伝えたいこと、より効果的に伝わる方法を話し合う。
- ⑫発表の仕方を工夫しながら、全校児童の前で発表する。
…防災教育研究発表会
- ⑬感想をもとにふり返りを行う。【12月】



②避難訓練の取組

1 ねらい

- ①災害やその被害について理解し、「想定にとらわれない判断力」を身に付けることができる。
- ②「自分の命を自分で守る」ために、よりよい行動をとることができる。
- ③命の尊さを知り、進んで「助け合い、支え合う」ことができる。

2 日時

【避難訓練】

- | | | |
|---------------------------------------|-------------|-----------|
| 5月18日（木） | 14:00～14:40 | 【地震・津波】 |
| 6月22日（木） | 13:50～14:40 | 【土砂災害・洪水】 |
| 10月2日（月） | 13:30～14:40 | 【地震・津波】 |
| （講師：高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター客員教授 岡村 眞先生） | | |
| 11月21日（火） | 13:55～14:40 | 【火災】 |

【保護者合同】

4月23日(日) 13:30～14:45 【親子避難場所見学】
2月18日(日) 14:35～15:20 【引き渡し】



(親子避難場所見学)



(春の遠足)



(第2避難場所：お堂)

③防災意識向上の取組（防災意識調査の実施）

児童・保護者・教職員に防災意識に係るアンケート調査を2回実施し、現状や課題、意識の変容や取組の進捗状況を把握して今後の取組の改善や推進に活用する。

- 第1回防災意識調査実施 2023年 5月
- 第2回防災意識調査実施 2023年12月

④校内研修での取組

夏季休業中には高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター客員教授 岡村眞先生を迎え、実際に避難経路を歩き、危険箇所や第1・2避難場所を確認した。その後、南海トラフ地震の予想発生時期や八東地区への被害などの講話を聞くことができた。

また、8月9日～12日には、本校2名の教諭が311教訓伝承・被災地視察研修に参加、学んだことを伝達講習として全教職員に共有することができた。

⑤防災教育研究発表会

全学級の防災学習授業の公開、5・6年児童による発表、教頭による実践発表を行った。講演会では、元岩手県陸前高田市教育委員会教育長金賢治さんを講師として招聘し、「今伝えたいことー東北大震災を体験してー」という題目で講演していただいた。

(3) 取組における成果と課題

①防災学習の取組

【1・2年生】

学校の中や、学校付近の通学路で、地震が起きると危険な場所や安全な場所について調べ、防災マップにまとめることができた。さらに、地域の方を招いて、調べたことと命を守るためにどのような行動をすればよいのかを発表することができた。2学期には、「南海トラフ地震に備えちょき」で地震や津波についての知識をさらに深め、防災キャラクターや劇や歌、ダンスを作成し、保育園児や保護者、地域の方に発表することができた。いつでも、どこにいても自分の身が守れるようさらに防災意識を高めていきたい。

【3・4年生】

フィールドワークから得た多くの情報を基に、地震が来た際に安全な避難路を考えることができた。また、それぞれの地域の避難場所や避難タワーの長所や短所も学習し理解することができた。防災マップを作る際には、最初はどの情報をどの程度記入したらよいかわからなかった児童も、学習を進める中で地域の方に伝えたい情報を選択し、防災マップを作り上げ、八東地区全家庭にポスターとして配布することができた。

【5・6年生】

八東地区と他の市町村の避難タワーを見学し、それぞれの避難タワーの特徴を知ることができた。なぜ避難タワーが作られたのか、どのような思いが込められているのか知ることができた。さらに、前年度までの学びも生かしながら、防災チラシの作成や防災教育研

究発表会での発表など、相手意識を持って意欲的に取り組むことができた。避難所生活については、時間の関係で、あまりできなかったが、段ボールベッドや簡易トイレを実際に使い、感じたことをまとめることができていた。



②避難訓練の取組

校舎が移転したこともあり、年度当初に学校近くにある第1避難場所（大橋）、第2避難場所（お堂）の場所の確認を行い、主に第2避難場所への避難訓練を行うことができた。避難場所へのルートがいくつもあるので、どの道が安全か、一人ひとりが考えて避難することができはじめた。また、避難訓練に、地域の方も参加してもらうことができた。

避難訓練では、「お・は・し・も」を守って、避難することができている。自分の命を守るために真剣に訓練できている児童が多い。しかし、途中で話をしてしまう児童もいるので、なぜ話してはいけないかなど、指導を続ける必要がある。

被害の状況に応じて、自分で判断して避難できるように、今後も避難訓練を継続していく必要がある。

③校内研修での取組

岡村教授との校内研修では、避難経路にあるブロック塀や廃屋などの危険箇所や、複数の避難経路を知っておくことの大切さなどについて確認しながら歩くことができた。また、防災学習では、危険ばかりを教えるのではなく、どうすれば安心・安全なのか、両面で考えさせることが大切であることも学ぶことができた。さらに、大きな地震の後は電気が使えない事も想定して、避難訓練でも放送機器を使わず、地声で指示を出さなければならない状況になるという話を受け、その後の避難訓練に活かすことができた。

311 教訓伝承・被災地視察研修の伝達講習では、自分たち教職員の判断が児童の命を守るかどうかの大きな分かれ道となり、いざという時の判断の重要性を再認識することができた。また、311 教訓伝承・被災地視察研修の内容を四万十市校長会でも発表することができた。

④防災教育研究発表会

本校の取組の内容や成果を多くの参加者に伝えることができた。講演会では、東日本大震災での経験等、貴重な話を聞くことができた。内容が本校で取り組んできた防災学習と合致していたこともあり、高学年児童は講演会にも参加してもよかったという意見もあった。

4 事業の成果と課題

(1) 成果指標及び達成率

【必須項目】

①各学校において危機管理マニュアルの見直しや内容の周知などを行い、日頃の安全教

育・管理や危機発生時における各教職員の役割について、共通理解を図っている学校の割合 <100%> → 達成率 100%

②学校安全を推進するための学校安全担当教員（管理職以外）を校務分掌に位置付けている学校の割合 <100%> → 達成率 75%

③学校安全に関する校内会議や研修等を実施している学校の割合 <100%>
→ 達成率 100%

【任意設定項目】

④防災意識調査（1～6年生児童対象、保護者対象）において、1回目に比べ2回目に肯定的評価が向上または90%以上の項目の割合 <80%>

→ 達成率 児童：72.7%（8問/11問） 保護者：38.4%（5問/13問）

90%以上の項目割合 1回目 児童：9% 保護者：15.3%

2回目 児童：27.2% 保護者：15.3%

⑤避難訓練のふりかえりシート（1～6年生児童対象）を避難訓練ごとに実施し、『おはしも』を守った』及び「本当に災害（地震・津波・土砂災害・洪水等）がおきた時のことを考えて、行動できた」の設問に対する肯定的評価 <90%>

→ 達成率 『おはしも』を守った』98%（2回目）

「本当に災害がおきたときのことを考えて、行動できた」92%（2回目）

⑥多様な想定での避難訓練を2種類以上実施した学校の割合 <100%>

→ 達成率 100%

(2) 事業の成果と課題【○成果●課題】

○市内各校の学校安全に関する資質向上を目指し、拠点校の防災学習授業の公開、実践委員会、校長会等を通して、拠点校での取組を周知する機会を設定した。市全体としては、各校のこれまでの学校安全に係る計画や実践を見直すとともに、今後の学校安全推進体制を概ね整備することができたと捉えている。また、実践委員会や防災発表会を通して、拠点校の安全教育の取組や児童の学びを地域や保護者に周知し、地域ぐるみで子どもを守る体制がより確かなものになった。

●防災意識調査では、学校生活以外での防災意識の向上が図れていない結果となった。家庭における防災意識の向上を図るためには保護者の防災に対する理解が必要となってくるが、学校における防災教育において保護者の理解を深めていくことには限界があるため、各関係機関との連携を図り、市全体として防災意識の向上に取り組んでいく必要がある。また、学校においては、防災参観日の開催や保護者も参加する避難訓練を実施するなど、積極的な働きかけが必要である。

●避難訓練では、『おはしも』を守り、真剣に取り組む児童がいる一方で、一部の児童において避難中に話しをしてしまっていたため、『おはしも』がなぜ大切なのか、継続して指導していく必要がある。

5 今後の取組の見通し

拠点校の取組により、防災教育のより良い取組方法などを研究できたため、身近な危険個所などについて、児童生徒を中心に研究を進めていけるように市内各校にも取組方について周知していく。

拠点校については本事業終了後も児童の防災意識を高める取組を進め、新たな成果についても市内各校に普及していく。

また、視察研修に行った職員については研修で学んだことについて、他校の校内研修にも派遣し、市内各校の防災意識の向上を図る。